

私のお薦めコーナー 北海道内の「〇〇」を旅したいっ

平成 晴

1. きっかけ

私は当時北見市に住んでいた 2009 年(平成 21 年)からオホーツク技術士委員会にお世話になり、釧路市に引っ越した現在も交流が続き、ときどき技術講演会などの行事に参加しております。その中で 2019 年(令和元年)から有志で年中行事化している 7 月 7 日 7 時 7 分の「水辺で乾杯」というイベントがあり、常呂川河川敷で夕方 6 時半頃からスタート、7 時 7 分に乾杯し即座に解散する(一部はその後別な場所で再度乾杯する)ものです。

水辺で乾杯は、河川をはじめ、湖、沼、田んぼ、ダム、海、港、プールなど「水のある・水を感じる」場所で乾杯するイベントで、7 月 1 日～7 日の 1 週間の好きな日に全国各地で実施しています。仲間どうしで集まると楽しいので、皆さんも今度やってみてはどうでしょうか。



写真-1 常呂川河川敷での「水辺で乾杯 2019」

写真-1 中央にいる方が「水辺で乾杯」の山川実行委員長(技術士(上下水道部門))。彼は「北海道内の一級河川を原付バイクで旅したいっ」というかわたび(川旅)制覇の野望を抱いており、2019 年(令和元年)に常呂川、2020 年(令和 2 年)に網走川をそれぞれ単独で踏破し、水辺で乾杯では参加者に自作のかわたび記録を配布しておりました。2019 年に

初めてかわたび記録を見た際(写真-2)、こんな旅もあるんだなあと感じていました。



写真-2 2021 年常呂川かわたび写真

時が経ち、私が 2023 年(令和 5 年)5 月のオホーツク技術士委員会主催の技術講演会に出席したときに「今度、石狩川を走るのと一緒にいきませんか?」と誘われました。私は普通自動二輪免許は持っているものの、ごくたまにレンタルして乗るぐらいだったので不安はあったのですが、面白そうな旅だし免許の有効活用にもなるので、山川実行委員長と同伴することにしました。

2. かわたびのルール

こうして山川実行委員長とかわたびに同行することとなりました。主なルールは下記のとおりです。

- ・北海道の 13 ある一級河川を源流(“原付”バイク + 少しの徒歩で移動可能な箇所)から河口までなるべく河川沿いに走る。
- ・無理な行程とせず、休憩時はときどき河川をじっくり眺め、心とからだを癒やす。

3. かわたび体験

(1)石狩川(2023年(令和5年)6月)

私が最初にお伴した石狩川は、河川の併走だけでも片道300kmくらいありました(加えて家から川までの移動もあり)が、実際走ってみると周りの景色を見ながら順調に進むことができました。下流になると上流では大きな岩だった河原の石がだんだん小さく砂粒になるとともに、川幅がどんどん広くなり石狩川のスケールの大きさを再認識しました。



写真-3 2023年石狩川かわたび写真

(2)釧路川(2024年(令和6年)6月)

釧路川は延長がさほど長くなく比較的平坦で、かつ地元であるため容易に走ることができました。川の流れる緩く高台から眺める釧路川は蛇行しているのがわかり、美しい景色を堪能しました。

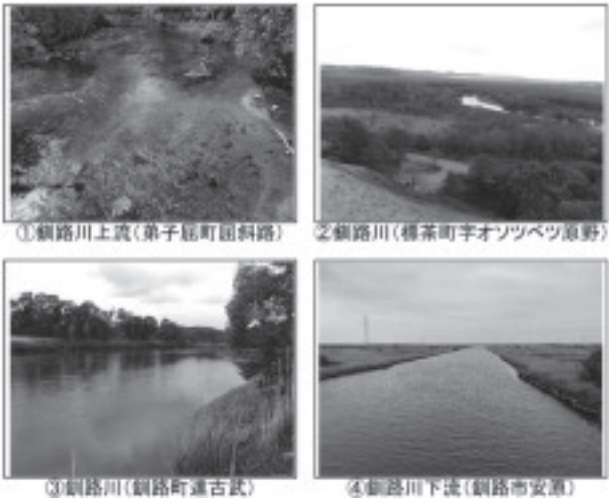


写真-4 2024年釧路川かわたび写真

(3)十勝川(2024年(令和6年)7月)

十勝川へ挑んだこの日は気温が高く、途中で休憩を何度も取りながら下っていきましたが、ゴールの豊頃町大津はとても涼しく、河口の太平洋沿岸付近では気持ちいい風にあたることができました。



写真-5 2024年十勝川かわたび写真

4. かわたびの今後

これまで13河川中、5河川を制覇しましたが、今後は目的地が居住地から離れたところが多く、スタート地点へ行くだけでも数時間を要します。ですので、かわたびルール「無理な行程とせず～」を遵守して完全制覇を目指していきたいと思います。

みなさま。普段住んでいる北海道内の「○○」を目指した旅を試してみるのも楽しいですよ。

表-1 かわたび記録(2024年7月現在)

河川名	進捗	河川名	進捗
常呂川	2019 済	天塩川	未踏破
網走川	2020 済	留萌川	未踏破
石狩川	2023 済	沙流川	未踏破
釧路川	2024 済	鶴川	未踏破
十勝川	2024 済	尻別川	未踏破
渚滑川	未踏破	後志利別川	未踏破
湧別川	未踏破		

平 成 晴(たいら しげはる)

技術士(建設部門)

日本技術士委員会 地方委員会
道東技術士委員会 会員
太平洋総合コンサルタント株式会社

